

愛おしい

中津市長 奥塚 正典

朝起き、おはようと挨拶を交わす。朝食をとり学校や仕事に出かける。家に帰り家族と話しそして眠る。日常ある当たり前の光景です。その当たり前がある日突然失われてしまった時、われわれはどんな気持ちになるのでしょうか。昨日までの日常の営み、一緒に笑っていた人、美しい風景が突如消えてしまうのです。

4月に起きた耶馬溪の土砂災害、自然の脅威は一瞬にして山地を崩壊し人の命を飲み込みました。どうしようもない辛^{つら}さと喪失感が襲ってきます。深い悲しみが温かい日常を思い起こさせ、当たり前とっていた平穩を「愛おしく」思わせるのです。

ところで、人間は、どんな時に「愛おしく」感じるのでしょうか。赤ちゃんが笑う、孫が甘えてくれる、恋人に会いたくてたまらなくなるなど理由無用に「愛おしい」でしょう。大事な人を亡くした時、「愛おしい」は何より募ります。

このように「愛おしさ」は、嬉しい時も悲しい時も、楽しい場面でも辛い場面でも人の心に生まれてきます。そして「愛おしい」と思う時間や場面が実は人間を前に推し進める大きな力になると信じます。今感じるその「愛おしさ」を大切に自分の心にしっかりしまって未来を切り拓くことにつなげてほしいものです。



少し突飛ですが、行政の仕事も「愛おしさ」と無関係ではありません。ある意味、市民の皆様が感じる「愛おしさ」が、できる限り悲しみや苦しみや不安から生じるのではなく、日常の平穩無事と元気、暮らしへの満足や充実感、そして未来への期待感から生まれてくるよう努めることではないでしょうか。いわば「嬉しい愛おしさ」を生み出し増やすことですね。われわれの心もそこにあるのです。